

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育並びに健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

## 2 調査の範囲・対象

### (1) 調査の範囲

幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校(以下「調査実施校」という。)とする。

### (2) 調査対象

調査実施校に在籍する満5歳から17歳(平成19年4月1日現在の満年齢)までの幼児、児童及び生徒(以下「児童等」という。)の一部である。

## 3 調査事項

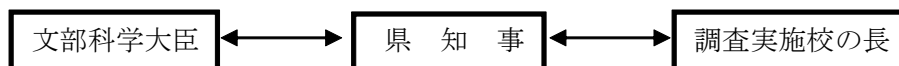
### (1) 児童等の発育状態(身長、体重及び座高)

### (2) 児童等の健康状態(栄養状態、せき柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無及び結核に関する検診の結果)

## 4 調査の方法

(1) 調査は、学校保健法に基づき、平成19年4月1日から6月30日までの間に実施された健康診断の結果により行う。

(2) 調査系統は、次のとおりとする。



## 5 調査対象実施学校数・調査人数

県内の調査実施学校数、調査対象数及び抽出率は、次のとおりである。

区分	学校総数(校)	調査実施校数(校)	児童等総数 A(人)	発育状態調査対象者数 B(人)	抽出率 B/A(%)	健康状態調査対象者数 C(人)	抽出率 C/A(%)
幼稚園	370	36	13,837	1,314	9.5	1,951	14.1
小学校	548	61	123,220	5,571	4.5	25,378	20.6
中学校	246	40	66,135	4,727	7.1	15,644	23.7
高等学校	115	31	64,661	2,670	4.1	15,519	24.0
計	1,279	168	267,853	14,282	5.3	58,492	21.8

(注) 児童等総数は調査対象外の学年の児童等を含まない。

## II 調査結果の概要

### 第1 発育状態

#### 1 身長、体重及び座高の本県平均値

平成19年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における児童等の身長、体重及び座高の本県平均値と全国平均値を年齢別にみると表1のとおりである。

##### (1) 身長

男子の身長は、6歳、8～10歳、12歳及び14歳の各年齢で前年度より伸びており、8歳(128.7 cm)は過去最高となっている。

女子の身長は、5歳、11歳、12歳、14歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より伸びている。10歳及び11歳では、女子の身長は男子の身長を上回っている。

身長を全国平均と比較してみると、男子の5歳、6歳、8歳～12歳及び14歳、女子の5歳～7歳、9歳～11歳及び15歳～17歳の各年齢で本県が上回っている。

##### (2) 体重

男子の体重は、8歳、12歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より増えており、15歳(62.8 kg)は過去最高となっている。

女子の体重は、5歳、6歳、11歳、13歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度より増えている。体重を全国平均と比較してみると、男女ともすべての年齢で本県が上回っている。

##### (3) 座高

男子の座高は、6歳、8歳～10歳及び14歳～17歳の各年齢で前年度より伸びており、9歳(73.1 cm)、14歳(88.3 cm)、15歳(90.7 cm)、16歳(91.4 cm)及び17歳(91.8 cm)は過去最高となっている。

女子の座高は、5歳、6歳及び11歳～17歳の各年齢で前年度より伸びており、14歳(85.2 cm)、15歳(85.8 cm)、16歳(86.1 cm)及び17歳(85.8 cm)は過去最高となっている。

座高を全国平均と比較してみると、男子は17歳を除く各年齢、女子の8歳を除く各年齢で本県が上回っている。

表 1-1 年齢別 身長の平均値

区 分	本県 (cm)						全国 (cm)		本県-全国 (cm)		
	男			女			男	女	男	女	
	H19 (A)	H18 (B)	差 (A-B)	H19 (C)	H18 (D)	差 (C-D)	H19 (E)	H19 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	110.8	111.0	-0.2	110.2	109.7	0.5	110.7	109.8	0.1	0.4
	6歳	117.2	116.8	0.4	116.0	116.1	-0.1	116.6	115.8	0.6	0.2
小学校	7歳	122.5	122.9	-0.4	121.9	122.3	-0.4	122.5	121.6	0.0	0.3
	8歳	<u>128.7</u>	128.3	0.4	127.3	127.8	-0.5	128.3	127.4	0.4	-0.1
	9歳	134.1	133.8	0.3	133.6	133.9	-0.3	133.6	133.5	0.5	0.1
	10歳	139.6	139.2	0.4	140.6	140.8	-0.2	139.0	140.3	0.6	0.3
	11歳	145.4	146.1	-0.7	147.4	147.0	0.4	145.1	146.8	0.3	0.6
中学校	12歳	153.4	152.7	0.7	151.9	151.8	0.1	152.5	152.1	0.9	-0.2
	13歳	159.8	160.6	-0.8	154.9	154.9	0.0	159.8	155.1	0.0	-0.2
	14歳	165.4	165.0	0.4	156.7	156.5	0.2	165.2	156.7	0.2	0.0
高等学校	15歳	168.3	168.7	-0.4	157.7	157.0	0.7	168.5	157.3	-0.2	0.4
	16歳	169.9	170.2	-0.3	158.1	158.1	0.0	170.0	157.8	-0.1	0.3
	17歳	170.4	170.6	-0.2	158.2	157.6	0.6	170.8	158.0	-0.4	0.2

(注) 下線の部分は調査実施以来最高値を示す。表 1-3 まで同じ。

表 1-2 年齢別 体重の平均値

区 分	本県 (kg)						全国 (kg)		本県-全国 (kg)		
	男			女			男	女	男	女	
	H19 (A)	H18 (B)	差 (A-B)	H19 (C)	H18 (D)	差 (C-D)	H19 (E)	H19 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	19.4	19.7	-0.3	19.1	18.9	0.2	19.1	18.7	0.3	0.4
	6歳	22.2	22.3	-0.1	21.5	21.2	0.3	21.5	21.0	0.7	0.5
小学校	7歳	24.8	25.0	-0.2	24.1	24.5	-0.4	24.2	23.5	0.6	0.6
	8歳	28.8	28.1	0.7	26.9	27.0	-0.1	27.4	26.6	1.4	0.3
	9歳	31.9	32.0	-0.1	30.7	30.8	-0.1	30.7	30.0	1.2	0.7
	10歳	35.8	35.9	-0.1	35.1	35.6	-0.5	34.4	34.3	1.4	0.8
	11歳	40.1	40.4	-0.3	40.7	40.4	0.3	38.7	39.1	1.4	1.6
中学校	12歳	46.2	45.9	0.3	44.9	45.1	-0.2	44.5	44.1	1.7	0.8
	13歳	50.2	52.3	-2.1	48.7	48.3	0.4	49.6	47.6	0.6	1.1
	14歳	55.6	55.8	-0.2	51.8	51.3	0.5	54.7	50.3	0.9	1.5
高等学校	15歳	<u>62.8</u>	60.7	2.1	52.4	53.9	-1.5	60.0	52.1	2.8	0.3
	16歳	62.3	63.9	-1.6	54.2	55.6	-1.4	62.0	53.2	0.3	1.0
	17歳	64.7	64.1	0.6	55.1	54.9	0.2	63.7	53.5	1.0	1.6

表 1-3 年齢別 座高の平均値

区 分	本県 (cm)						全国 (cm)		本県-全国 (cm)		
	男			女			男	女	男	女	
	H19 (A)	H18 (B)	差 (A-B)	H19 (C)	H18 (D)	差 (C-D)	H19 (E)	H19 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	62.2	62.4	-0.2	61.9	61.8	0.1	62.0	61.6	0.2	0.3
	6歳	65.1	65.0	0.1	64.7	64.6	0.1	64.8	64.5	0.3	0.2
小学校	7歳	67.8	67.8	0.0	67.6	67.6	0.0	67.7	67.3	0.1	0.3
	8歳	70.6	70.3	0.3	69.9	70.2	-0.3	70.4	70.0	0.2	-0.1
	9歳	<u>73.1</u>	72.9	0.2	72.9	73.0	-0.1	72.7	72.8	0.4	0.1
	10歳	75.4	75.3	0.1	76.2	76.3	-0.1	75.1	76.0	0.3	0.2
	11歳	78.1	78.2	-0.1	79.8	79.6	0.2	77.7	79.3	0.4	0.5
中学校	12歳	81.9	81.9	0.0	82.5	82.2	0.3	81.3	82.2	0.6	0.3
	13歳	85.1	85.9	-0.8	84.1	84.0	0.1	85.0	83.9	0.1	0.2
	14歳	<u>88.3</u>	88.2	0.1	<u>85.2</u>	85.1	0.1	88.0	84.9	0.3	0.3
高等学校	15歳	<u>90.7</u>	90.5	0.2	<u>85.8</u>	85.3	0.5	90.2	85.4	0.5	0.4
	16歳	<u>91.4</u>	91.3	0.1	<u>86.1</u>	85.8	0.3	91.3	85.6	0.1	0.5
	17歳	<u>91.8</u>	91.7	0.1	<u>85.8</u>	85.5	0.3	91.8	85.7	0.0	0.1

## 2 身長、体重及び座高の推移

### (1) 身長の推移

〈男子〉

- ① 各年齢間の身長差は11歳と12歳の間(8.0 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.5 cm)が最も小さい。
- ② 親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳で、親の世代より4.4 cm高い。
- ③ 平成元年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和34年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成元年度生まれが12歳(7.5 cm)、親の世代が12歳(8.6 cm)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、6歳、8歳、10歳及び11歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。

〈女子〉

- ① 各年齢間の身長差は9歳と10歳の間(7.0 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.1 cm)が最も小さい。
- ② 親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は10歳で、親の世代より3.1 cm高い。
- ③ 平成元年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和34年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成元年度生まれが9歳(7.5 cm)、親の世代が9歳(6.5 cm)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、7歳、9歳、10歳及び15歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。

**表2 身長の年齢別平均値** (cm)

区 分			H 1 9 (A)	年齢差	H 1 8 (B)	差 (A-B)	S 5 2 親の世代(C)	差 (A-C)
男 子	幼稚園	5歳	110.8		111.0	-0.2	109.8	1.0
		小学校	6歳	117.2	6.4	116.8	0.4	115.0
	7歳		122.5	5.3	122.9	-0.4	120.8	1.7
	8歳		128.7	6.2	128.3	0.4	126.6	2.1
	9歳		134.1	5.4	133.8	0.3	132.4	1.7
	10歳		139.6	5.5	139.2	0.4	136.2	3.4
	11歳		145.4	5.8	146.1	-0.7	143.3	2.1
	中学校	12歳	153.4	<u>8.0</u>	152.7	0.7	149.0	4.4
		13歳	159.8	6.4	160.6	-0.8	157.2	2.6
		14歳	165.4	5.6	165.0	0.4	162.4	3.0
	高等学校	15歳	168.3	2.9	168.7	-0.4	165.3	3.0
		16歳	169.9	1.6	170.2	-0.3	168.1	1.8
		17歳	170.4	0.5	170.6	-0.2	169.0	1.4
	女 子	幼稚園	5歳	110.2		109.7	0.5	109.5
小学校			6歳	116.0	5.8	116.1	-0.1	114.6
		7歳	121.9	5.9	122.3	-0.4	120.2	1.7
		8歳	127.3	5.4	127.8	-0.5	125.8	1.5
		9歳	133.6	6.3	133.9	-0.3	131.3	2.3
		10歳	140.6	<u>7.0</u>	140.8	-0.2	137.5	3.1
		11歳	147.4	6.8	147.0	0.4	144.9	2.5
中学校		12歳	151.9	4.5	151.8	0.1	150.1	1.8
		13歳	154.9	3.0	154.9	0.0	153.7	1.2
		14歳	156.7	1.8	156.5	0.2	155.2	1.5
高等学校		15歳	157.7	1.0	157.0	0.7	155.9	1.8
		16歳	158.1	0.4	158.1	0.0	156.6	1.5
		17歳	158.2	0.1	157.6	0.6	156.6	1.6

(注) 下線の部分は各年齢間の差が最も大きい値を示す。表4、表6も同じ。

図1 身長年齢別平均値の推移(男子)

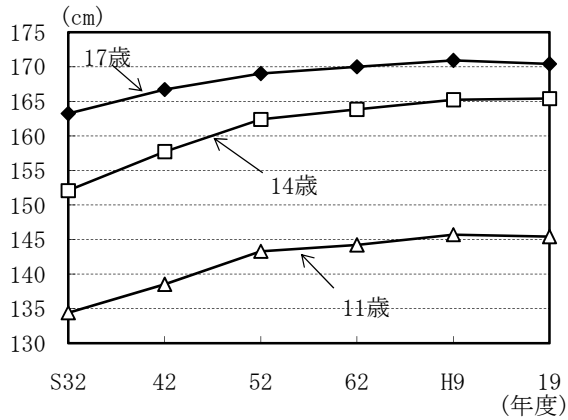


図2 身長年齢別平均値の推移(女子)

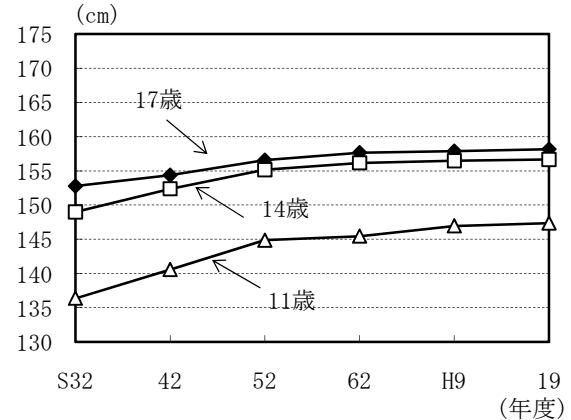


表3 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(身長) (cm)

区分	男子		女子	
	平成元年度生まれ (平成19年度17歳)	昭和34年度生まれ (昭和52年度17歳)	平成元年度生まれ (平成19年度17歳)	昭和34年度生まれ (昭和52年度17歳)
総発育量	59.1	60.2	47.7	48.9
幼稚園	5歳時	5.7	4.4	5.9
	6歳時	5.9	5.1	5.4
	7歳時	5.4	5.7	6.1
	8歳時	5.8	5.2	5.4
	9歳時	5.6	6.1	<u>7.5</u>
	10歳時	5.5	4.4	6.7
小学校	11歳時	7.4	6.8	4.9
	12歳時	<u>7.5</u>	<u>8.6</u>	2.6
	13歳時	4.6	6.2	1.5
	14歳時	3.2	4.0	0.7
中学校	15歳時	2.3	3.2	0.9
	16歳時	0.2	0.5	0.1
高等学校				

(注) 1 年間発育量とは、例えば、平成元年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成8年度調査6歳の者の体位から平成7年度調査5歳の者の体位を引いたものである。  
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。  
 3 昭和34年度生まれの10歳の数値は全国値によった。(昭和45年度本調査が新調査移行期のため、標本数が少なく県内の数値は公表していないため。)

図3 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(身長・男子)

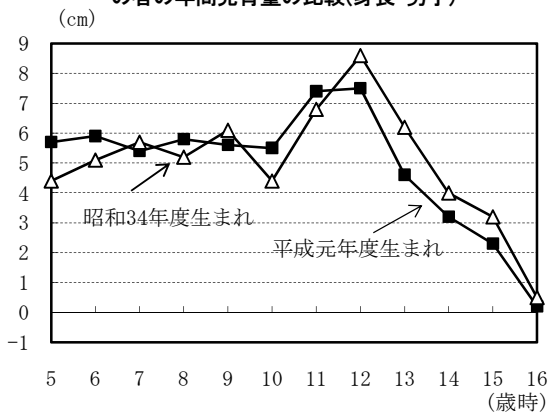
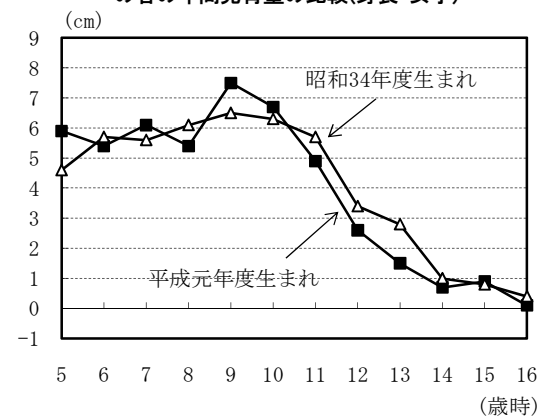


図4 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(身長・女子)



(2) 体重の推移

〈男子〉

- ① 各年齢間の体重差は、14歳と15歳の間(7.2 kg)が最も大きい。
- ② 親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は15歳で、親の世代より7.4 kg重い。
- ③ 平成元年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和34年度生まれ(親の世代)の発育量と比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成元年度生まれが14歳(6.2 kg)、親の世代が12歳(6.9 kg)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳～11歳及び14歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。

〈女子〉

- ① 各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間(5.6 kg)が最も大きく、14歳と15歳の間(0.6 kg)が最も小さい。
- ② 親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代より3.2 kg重い。
- ③ 平成元年度生まれ(今年度調査時17歳)と30年前の昭和34年度生まれ(親の世代)の発育量を比べると、年間発育量が最大となる時期は、平成元年度生まれが10歳(5.2 kg)、親の世代が12歳(5.2 kg)を示している。

なお、現在の17歳は、5歳、7歳～11歳及び14歳の各歳時において親の世代の発育量を上回っている。

表4 体重の年齢別平均値

区 分			H19 (A)	年齢差	H18 (B)	差 (A-B)	S52 親の世代(C)	差 (A-C)
男 子	幼稚園	5歳	19.4		19.7	-0.3	18.6	0.8
		小学校	6歳	22.2	2.8	22.3	-0.1	20.2
	7歳		24.8	2.6	25.0	-0.2	22.9	1.9
	8歳		28.8	4.0	28.1	0.7	25.7	3.1
	9歳		31.9	3.1	32.0	-0.1	29.0	2.9
	10歳		35.8	3.9	35.9	-0.1	31.3	4.5
	11歳		40.1	4.3	40.4	-0.3	36.0	4.1
	中学校	12歳	46.2	6.1	45.9	0.3	40.6	5.6
		13歳	50.2	4.0	52.3	-2.1	46.6	3.6
		14歳	55.6	5.4	55.8	-0.2	51.8	3.8
	高等学校	15歳	62.8	<u>7.2</u>	60.7	2.1	55.4	7.4
		16歳	62.3	-0.5	63.9	-1.6	58.1	4.2
		17歳	64.7	2.4	64.1	0.6	60.7	4.0
	女 子	幼稚園	5歳	19.1		18.9	0.2	18.7
小学校			6歳	21.5	2.4	21.2	0.3	20.1
		7歳	24.1	2.6	24.5	-0.4	22.5	1.6
		8歳	26.9	2.8	27.0	-0.1	25.2	1.7
		9歳	30.7	3.8	30.8	-0.1	28.5	2.2
		10歳	35.1	4.4	35.6	-0.5	32.1	3.0
		11歳	40.7	<u>5.6</u>	40.4	0.3	37.5	3.2
中学校		12歳	44.9	4.2	45.1	-0.2	42.5	2.4
		13歳	48.7	3.8	48.3	0.4	46.5	2.2
		14歳	51.8	3.1	51.3	0.5	49.3	2.5
高等学校		15歳	52.4	0.6	53.9	-1.5	51.8	0.6
		16歳	54.2	1.8	55.6	-1.4	52.6	1.6
		17歳	55.1	0.9	54.9	0.2	53.4	1.7

図5 体重の年齢別平均値の推移(男子)

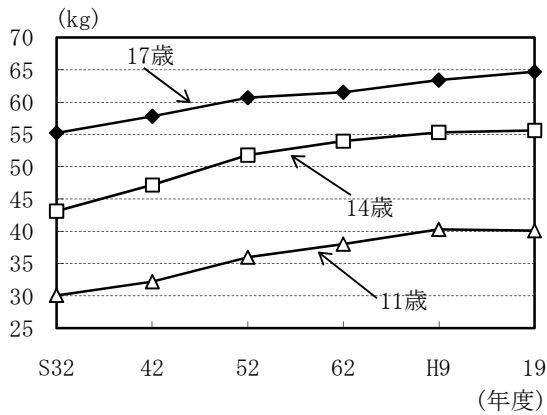


図6 体重の年齢別平均値の推移(女子)

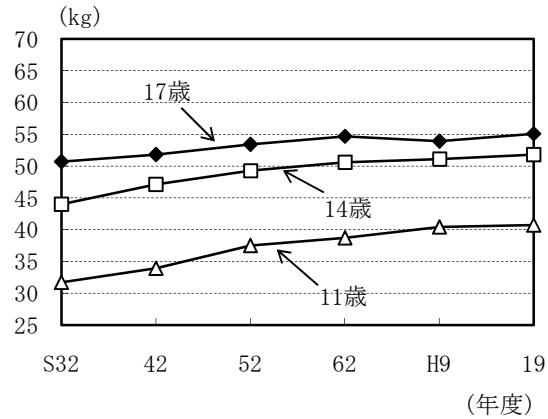


表5 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)

区 分	男 子		女 子		
	平成元年度生まれ (平成19年度17歳)	昭和34年度生まれ (昭和52年度17歳)	平成元年度生まれ (平成19年度17歳)	昭和34年度生まれ (昭和52年度17歳)	
総 発 育 量	44.7	42.6	35.6	35.8	
幼稚園 5 歳時	2.2	1.5	2.5	1.4	
小学校	6 歳時	3.1	2.1	2.2	2.2
	7 歳時	2.8	2.7	3.0	2.9
	8 歳時	3.7	2.9	3.9	2.8
	9 歳時	3.8	3.2	4.8	4.1
	10 歳時	4.8	2.6	<u>5.2</u>	4.9
11 歳時	5.6	5.0	5.1	4.9	
中学校	12 歳時	5.2	<u>6.9</u>	2.9	<u>5.2</u>
	13 歳時	4.2	5.2	1.8	3.2
	14 歳時	6.2	4.8	3.2	2.3
高等学校	15 歳時	2.3	4.0	1.5	1.5
	16 歳時	0.8	1.7	-0.5	0.4

(注) 1 年間発育量とは、例えば、平成元年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成8年度調査6歳の者の体位から平成7年度調査5歳の者の体位を引いたものである。  
 2 下線の部分は、最大の年間発育量を示す。  
 3 昭和34年度生まれの10歳の数値は全国値によった。(昭和45年度本調査が新調査移行期のため、標本数が少なく県内の数値は公表していないため。)

図7 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・男子)

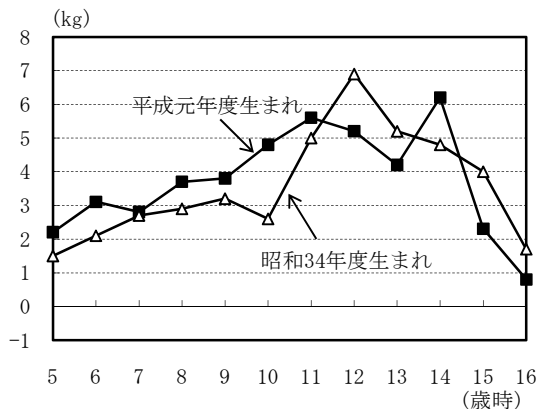
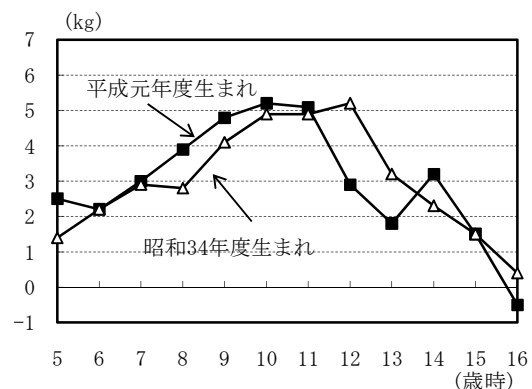


図8 平成元年度生まれと昭和34年度生まれの者の年間発育量の比較(体重・女子)



(3) 座高の推移

〈男子〉

- ① 各年齢間の座高差は、11歳と12歳の間(3.8 cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.4 cm)が最も小さい。
- ② 男子の座高を親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は12歳及び15歳で、親の世代よりも2.4 cm高い。

〈女子〉

- ① 各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間(3.6 cm)が最も大きい。
- ② 女子の座高を親の世代(30年前・昭和52年度調査)と比べると、最も差のある年齢は11歳で、親の世代よりも2.0 cm高い。

表6 座高の年齢別平均値

区 分			H 1 9 (A)	年齢差	H 1 8 (B)	差 (A-B)	S 5 2 親の世代(C)	差 (A-C)	
男  子	幼稚園	5歳	62.2		62.4	-0.2	60.9	1.3	
		小学校	6歳	65.1	2.9	65.0	0.1	64.5	0.6
	7歳		67.8	2.7	67.8	0.0	67.1	0.7	
	8歳		70.6	2.8	70.3	0.3	69.7	0.9	
	9歳		73.1	2.5	72.9	0.2	72.3	0.8	
	10歳		75.4	2.3	75.3	0.1	73.9	1.5	
	中学校	11歳	78.1	2.7	78.2	-0.1	76.7	1.4	
		12歳	81.9	<u>3.8</u>	81.9	0.0	79.5	2.4	
		13歳	85.1	3.2	85.9	-0.8	83.6	1.5	
	高等学校	14歳	88.3	3.2	88.2	0.1	86.7	1.6	
		15歳	90.7	2.4	90.5	0.2	88.3	2.4	
		16歳	91.4	0.7	91.3	0.1	89.7	1.7	
		17歳	91.8	0.4	91.7	0.1	90.5	1.3	
	女  子	幼稚園	5歳	61.9		61.8	0.1	60.8	1.1
			小学校	6歳	64.7	2.8	64.6	0.1	64.2
		7歳		67.6	2.9	67.6	0.0	66.9	0.7
		8歳		69.9	2.3	70.2	-0.3	69.3	0.6
9歳		72.9		3.0	73.0	-0.1	71.7	1.2	
10歳		76.2		3.3	76.3	-0.1	74.7	1.5	
中学校		11歳	79.8	<u>3.6</u>	79.6	0.2	77.8	2.0	
		12歳	82.5	2.7	82.2	0.3	81.4	1.1	
		13歳	84.1	1.6	84.0	0.1	83.2	0.9	
高等学校		14歳	85.2	1.1	85.1	0.1	84.5	0.7	
		15歳	85.8	0.6	85.3	0.5	84.8	1.0	
		16歳	86.1	0.3	85.8	0.3	85.0	1.1	
		17歳	85.8	-0.3	85.5	0.3	85.1	0.7	



## 第2 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率等別状況

疾病・異常の被患率等を段階別にみると表7のとおりである。

疾病・異常の被患率等の中で最も高いものは、むし歯(う歯)で、幼稚園 66.7%、小学校 73.8%、中学校 70.2%、高等学校 76.8%となっている。

次に高いのは、裸眼視力 1.0 未満の者で、小学校 30.9%、中学校 55.2%、高等学校 51.1%となっている。

表7 疾病・異常の被患率等

(%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校		
90%以上						
80%以上～90%未満						
70～80		むし歯 73.8	むし歯 70.2	むし歯 76.8		
60～70	むし歯 66.7					
40～60			裸眼視力1.0未満の者 55.2	裸眼視力1.0未満の者 51.1		
20～40		裸眼視力1.0未満の者 30.9				
10～20			鼻・副鼻腔疾患 11.2			
1～10	8～10					
	6～8		鼻・副鼻腔疾患 6.3	歯垢の状態 6.9		
				歯列・咬合 6.1		
				歯肉の状態 6.0		
	4～6		アトピー性皮膚炎 4.2		歯肉の状態 5.5	
					歯垢の状態 4.5	
					歯列・咬合 4.1	
		2～4	歯列・咬合 3.9	ぜん息 3.6	耳疾患 3.3	心電図異常 3.8
			ぜん息 3.5	歯列・咬合 3.4	心電図異常 2.6	鼻・副鼻腔疾患 3.1
			アトピー性皮膚炎 2.9	眼の疾病・異常 3.2	眼の疾病・異常 2.5	
			歯・口腔のその他の疾患・異常 3.0	アトピー性皮膚炎 2.3		
			耳疾患 2.9			
	栄養状態 2.9					
	心電図異常 2.6					
	口腔咽喉頭疾患・異常 2.1					
	歯垢の状態 2.0					
1～2	耳疾患 1.4	その他の疾患・異常 1.3	栄養状態 1.8	アトピー性皮膚炎 1.4		
	鼻・副鼻腔疾患 1.3		ぜん息 1.6	蛋白検出の者 1.3		
	眼の疾病・異常 1.0		蛋白検出の者 1.4	眼の疾病・異常 1.2		
			その他の疾患・異常 1.1	歯・口腔のその他の疾患・異常 1.1		
			その他の疾患・異常 1.0			
0.1～1	0.5～1	口腔咽喉頭疾患・異常 0.9	歯肉の状態 0.9	口腔咽喉頭疾患・異常 0.9	難聴 0.5	
		その他の疾患・異常 0.7	難聴 0.7	難聴 0.8	栄養状態 0.5	
		その他の皮膚疾患 0.6		歯・口腔のその他の疾患・異常 0.7	ぜん息 0.5	
		蛋白検出の者 0.5		結核対策委員会の要検討者 0.6		
		言語障害 0.5				
	0.1～0.5	心臓の疾病・異常 0.4	心臓の疾病・異常 0.4	せき柱・胸郭 0.4	口腔咽喉頭疾患・異常 0.3	
		歯・口腔のその他の疾患・異常 0.3	言語障害 0.4	その他の皮膚疾患 0.4	その他の皮膚疾患 0.3	
		栄養状態 0.3	せき柱・胸郭 0.3	心臓の疾病・異常 0.3	耳疾患 0.2	
		歯肉の状態 0.2	その他の皮膚疾患 0.3	顎関節 0.1	顎関節 0.2	
		せき柱・胸郭 0.1	結核対策委員会の要検討者 0.3	尿糖検出の者 0.1	せき柱・胸郭 0.2	
	蛋白検出の者 0.3	腎臓疾患 0.1	心臓の疾病・異常 0.1			
	腎臓疾患 0.2	言語障害 0.1	尿糖検出の者 0.1			
	顎関節 0.1	顎関節 0.1	腎臓疾患 0.1			
	結核精密検査の対象者 0.1					
0.1%未満		尿糖検出の者 0.0	結核精密検査の対象者 0.0	言語障害 0.0		

- (注) 1 「眼の疾患・異常」とは、トラコーマ、流行性角結膜炎、麦粒腫(ものもらい)、眼炎、斜視、片目失明等である。  
 2 「耳疾患」とは、中耳炎、内耳炎、外耳炎、メニエール病、耳かいの欠損、耳垢栓塞等である。  
 3 「鼻・副鼻腔疾患」とは、慢性副鼻腔炎、慢性的症状の鼻炎、鼻ポリープ、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等である。  
 4 「歯・口腔のその他の疾患・異常の者」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、口蓋裂、唇裂、舌小帯異常等である。  
 5 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。  
 6 「その他の疾患・異常」とは、この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病・異常(例えば、じん麻疹、てんかん、貧血等)である。  
 7 「結核対策委員会の要検討者」とは、結核に関する検診により結核対策委員会で精密検査の要否等の検討を要した者である。  
 8 「結核精密検査の対象者」とは、上記7の検討の結果、結核の精密検査を必要とされた者である。

## 2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものについて、およそ10年間の推移をみると表8のとおりである。

表8 主な疾病・異常の推移

(%)

区分		裸眼視力 1.0 未満の 者	耳 疾 患	鼻・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患 ・ 異 常	む し 歯	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出 の 者	寄 生 虫 卵 保 有 者	ぜん 息
幼稚園	H9	25.4	0.5	1.4	8.4	76.5	-	0.3	-	0.3
	15	31.9	1.8	2.2	5.5	70.9	-	0.1	-	1.5
	16	33.6	0.7	1.2	4.3	63.5	-	0.2	-	0.8
	17	19.9	0.8	1.2	0.4	63.9	-	0.2	-	0.6
	18	X	0.7	1.0	1.1	68.8	-	0.2	-	2.4
	19	X	1.4	1.3	0.9	66.7	-	0.5	-	3.5
	全国H19	26.2	2.6	3.7	2.4	53.7	-	0.7	0.2	2.2
小学校	H9	29.7	2.4	5.6	2.9	87.5	3.1	0.2	0.4	0.6
	15	28.8	3.1	4.6	3.4	77.6	2.5	0.4	0.0	2.9
	16	28.9	3.1	5.4	1.8	77.6	1.6	0.3	-	2.1
	17	31.0	3.5	7.9	2.6	74.2	3.1	0.4	0.0	2.5
	18	29.9	4.0	8.0	2.1	76.3	1.9	0.4	0.0	2.9
	19	30.9	2.9	6.3	2.1	73.8	2.6	0.3	-	3.6
	全国H19	28.1	5.1	12.0	1.8	65.5	2.5	0.7	0.4	3.9
中学校	H9	48.0	1.0	3.4	2.3	86.7	3.0	1.0	-	1.4
	15	48.1	2.1	6.6	1.5	74.4	3.3	1.0	-	1.4
	16	50.5	1.9	5.6	1.2	71.3	3.4	1.7	-	1.0
	17	50.4	1.7	6.8	1.0	67.7	2.6	0.9	-	1.3
	18	49.8	1.3	6.5	1.2	67.7	2.5	0.8	-	1.9
	19	55.2	3.3	11.2	0.9	70.2	2.6	1.4	-	1.6
	全国H19	51.2	3.3	11.1	1.0	58.1	3.2	2.4	-	3.1
高等学校	H9	62.2	0.1	3.2	0.4	91.6	4.2	1.2	-	0.6
	15	59.6	0.1	1.9	0.9	80.6	4.1	1.1	-	0.9
	16	56.8	0.1	3.5	0.8	80.5	3.2	0.7	-	0.3
	17	56.7	0.3	6.0	0.9	78.5	3.2	1.2	-	0.6
	18	X	0.5	8.0	1.1	75.3	3.3	1.3	-	1.2
	19	51.1	0.2	3.1	0.3	76.8	3.8	1.3	-	0.5
	全国H19	55.4	1.7	8.4	0.6	68.5	3.2	2.5	-	1.8

(注) 1. 小数点以下第2位を四捨五入している。以下の各表において同じ。

2. 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

3. 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

4. [X] は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。以下各表について同じ。

(1) 視力の推移

裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、表9のとおりである。

前年度と比べると、小学校では 1.0 ポイント、中学校では 5.4 ポイント増加している。

10 年前(平成 9 年度)と比べると、小学校では 1.2 ポイント、中学校では 7.2 ポイント増加し、高等学校では 11.1 ポイント減少している。

また、裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、小学校及び中学校で全国平均を上回っている。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

区 分		H9	15	16	17	18 (A)	19 (B)	差 (B-A)	全国H19 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	25.4	31.9	33.6	19.9	X	X	-	26.2	-
	1.0未満 0.7以上	18.5	20.1	22.9	15.6	X	X	-	18.9	-
	0.7未満 0.3以上	6.9	11.5	10.5	4.3	X	X	-	6.8	-
	0.3未満	-	0.2	0.2	-	X	X	-	0.5	-
小学校	計	29.7	28.8	28.9	31.0	29.9	30.9	1.0	28.1	2.8
	1.0未満 0.7以上	14.2	13.2	12.9	12.8	11.7	13.4	1.7	10.6	2.8
	0.7未満 0.3以上	9.7	10.4	10.7	11.9	11.7	10.7	-1.0	11.0	-0.3
	0.3未満	5.7	5.3	5.4	6.3	6.4	6.8	0.4	6.5	0.3
中学校	計	48.0	48.1	50.5	50.4	49.8	55.2	5.4	51.2	4.0
	1.0未満 0.7以上	11.3	11.4	12.9	12.5	13.0	14.7	1.7	13.3	1.4
	0.7未満 0.3以上	15.9	17.5	17.5	17.5	18.5	19.0	0.5	17.6	1.4
	0.3未満	20.9	19.2	20.2	20.4	18.3	21.4	3.1	20.3	1.1
高等学校	計	62.2	59.6	56.8	56.7	X	51.1	-	55.4	-4.3
	1.0未満 0.7以上	9.1	12.1	14.8	12.7	X	11.3	-	12.4	-1.1
	0.7未満 0.3以上	18.0	15.5	20.9	17.6	X	17.8	-	16.9	0.9
	0.3未満	35.1	32.0	21.1	26.4	X	22.0	-	26.1	-4.1

(注) 計欄の数値と内訳の合計の数値とは、四捨五入しているため一致しない場合がある。

表11まで同じ。

図9 裸眼視力1.0未満の者の推移

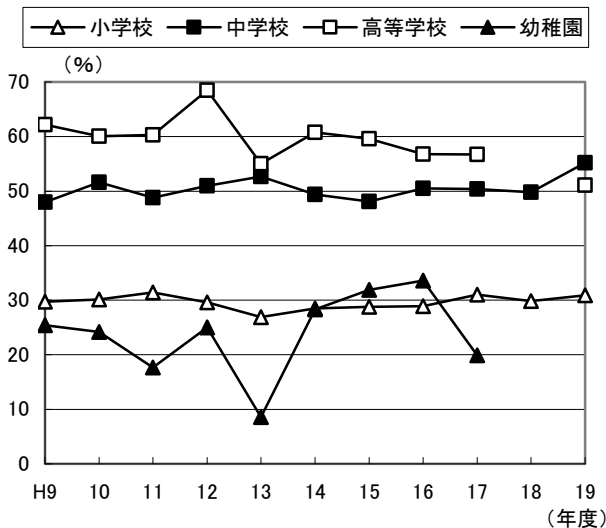
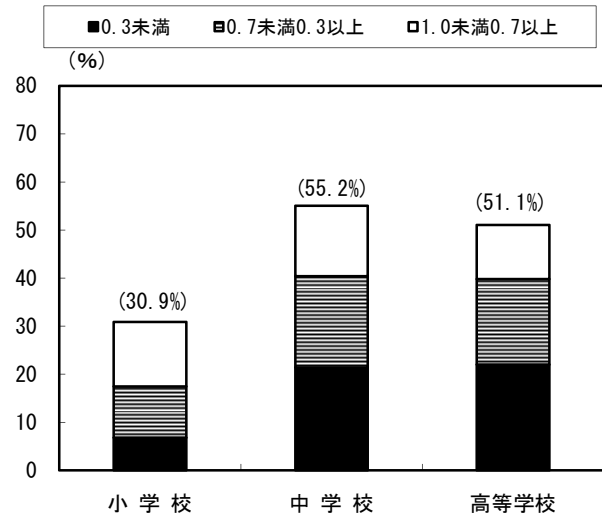


図10 学校種別裸眼視力1.0未満の者の割合



(2) むし歯の推移

むし歯について「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分してみると表10のとおりである。

むし歯の被患率(治療済みの者を含む。)は、幼稚園で66.7%、小学校で73.8%、中学校で70.2%、高等学校では76.8%となっている。

前年度と比べると、中学校では2.5ポイント、高等学校では1.5ポイント増加している。

むし歯の被患率は、30年前(昭和52年度)には各学校段階で9割を超え、20年前(昭和62年度)も30年前と同程度の水準であったが、近年は低下傾向にある。

また、むし歯の被患率は、すべての学校段階で全国平均を上回っている。

表10 むし歯の者の割合の推移

区 分		S52	62	H9	15	16	17	18 (A)	19 (B)	差 (B-A)	全国H19 (C)	差 (B-C)
幼稚園	計	93.9	89.8	76.5	70.9	63.5	63.9	68.8	66.7	-2.1	53.7	13.0
	処置完了者	14.4	24.7	22.9	21.3	16.7	21.5	24.7	24.2	-0.5	20.7	3.5
	未処置歯のある者	79.5	65.1	53.7	49.6	46.9	42.4	44.1	42.5	-1.6	33.0	9.5
小学校	計	93.7	93.2	87.5	77.6	77.6	74.2	76.3	73.8	-2.5	65.5	8.3
	処置完了者	13.0	35.8	42.5	33.8	36.1	31.7	36.3	32.9	-3.4	31.2	1.7
	未処置歯のある者	80.7	57.4	45.0	43.8	41.5	42.5	39.9	40.9	1.0	34.3	6.6
中学校	計	94.6	90.1	86.7	74.4	71.3	67.7	67.7	70.2	2.5	58.1	12.1
	処置完了者	23.1	37.9	45.3	37.3	38.3	37.8	36.0	34.3	-1.7	31.0	3.3
	未処置歯のある者	71.5	52.2	41.4	37.1	33.0	29.9	31.7	35.9	4.2	27.1	8.8
高等学校	計	95.2	96.0	91.6	80.6	80.5	78.5	75.3	76.8	1.5	68.5	8.3
	処置完了者	24.3	37.1	47.8	46.9	46.3	46.1	39.7	39.8	0.1	38.2	1.6
	未処置歯のある者	70.9	58.9	43.8	33.7	34.3	32.4	35.5	37.0	1.5	30.3	6.7

図11 むし歯の被患率の推移

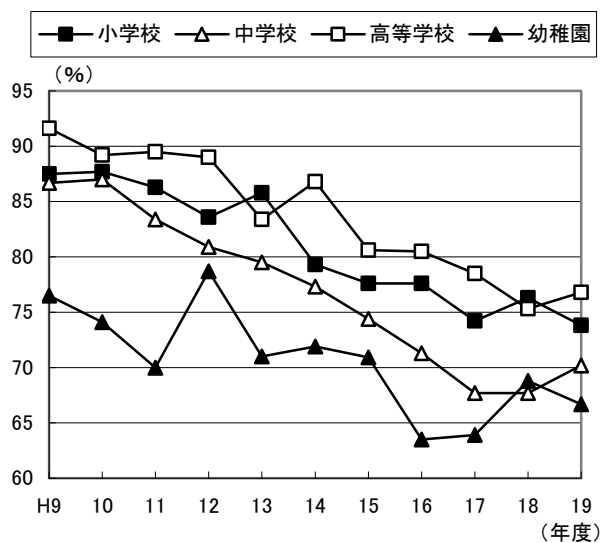
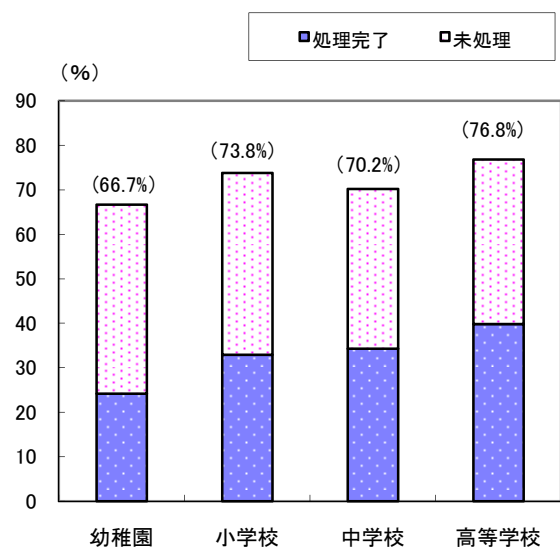


図12 むし歯の処理状況



(3) 永久歯の一人当たり平均むし歯数等(12歳時のみ)

12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等(喪失歯及びむし歯数)についてみると表11のとおりであり、喪失歯数は変化がないが、むし歯数は2.2本となっており、昭和59年に調査を開始して以来おおむね減少傾向にある。

10年前(平成9年)と比べると1.7本減少している。

また、12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯数等は、全国平均を上回っている。

表11 永久歯の一人当たり平均むし歯数等

(本)

区分	H9	15	16	17	18 (A)	19 (B)	差 (B-A)	全国H19 (C)	差 (B-C)
合計	3.9	2.7	2.1	2.0	2.0	2.2	0.2	1.6	0.6
喪失歯数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯	小計	3.8	2.7	2.1	2.0	2.0	0.2	1.6	0.6
	処置歯数	2.7	1.7	1.4	1.4	1.3	1.3	0.0	0.3
	未処置歯数	1.1	1.0	0.6	0.6	0.6	0.9	0.6	0.3

(4) 鼻・副鼻腔疾患

鼻、副鼻腔疾患(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園1.3%、小学校6.3%、中学校11.2%、高等学校3.1%となっており、幼稚園及び中学校で前年度より増加している。

また、鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園、小学校及び高等学校で全国平均を下回っている。

表12 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

(%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成9年度	1.4	5.6	3.4	3.2
平成15年度	2.2	4.6	6.6	1.9
平成16年度	1.2	5.4	5.6	3.5
平成17年度	1.2	7.9	6.8	6.0
平成18年度(A)	1.0	8.0	6.5	8.0
平成19年度(B)	1.3	6.3	11.2	3.1
増減(B-A)	0.3	-1.7	4.7	-4.9
平成19年度全国平均(C)	3.7	12.0	11.1	8.4
比較(B-C)	-2.4	-5.7	0.1	-5.3

(注) 増減の数値と各年度の数値の増減とは、四捨五入しているため一致しない場合がある。

表15まで同じ。

(5) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

心電図異常の者の割合は、小学校2.6%、中学校2.6%、高等学校3.8%となっており、各学校段階すべてで前年度より増加している。

また、心電図異常の者の割合は、中学校で全国平均を下回っている。

表13 心電図異常の者の割合

(%)

区分	6歳(小学校1年)	12歳(中学校1年)	15歳(高等学校1年)
平成9年度	3.1	3.0	4.2
平成15年度	2.5	3.3	4.1
平成16年度	1.6	3.4	3.2
平成17年度	3.1	2.6	3.2
平成18年度(A)	1.9	2.5	3.3
平成19年度(B)	2.6	2.6	3.8
増減(B-A)	0.7	0.1	0.5
平成19年度全国平均(C)	2.5	3.2	3.2
比較(B-C)	0.1	-0.6	0.6

(6) ぜん息

ぜん息の者の割合は、幼稚園 3.5%、小学校 3.6%、中学校 1.6%、高等学校 0.5%となっており、幼稚園及び小学校で前年度より増加している。

また、ぜん息の者の割合は、小学校、中学校及び高等学校で全国平均を下回っている。

**表14 ぜん息の者の割合** (%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成 9 年 度	0.3	0.6	1.4	0.6
平成 15 年 度	1.5	2.9	1.4	0.9
平成 16 年 度	0.8	2.1	1.0	0.3
平成 17 年 度	0.6	2.5	1.3	0.6
平成18年度(A)	2.4	2.9	1.9	1.2
平成19年度(B)	3.5	3.6	1.6	0.5
増 減 (B-A)	1.1	0.7	-0.3	-0.7
平成19年度全国平均(C)	2.2	3.9	3.1	1.8
比 較 (B-C)	1.3	-0.3	-1.5	-1.3

(7) その他の疾病・異常

この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病・異常(例えば、じん麻疹、てんかん、貧血等)の者の割合は、幼稚園 0.7%、小学校 1.3%、中学校 1.1%、高等学校 1.0%となっており、幼稚園及び小学校で前年度より増加している。

また、その他の疾病・異常の者の割合は、中学校及び高等学校で全国平均を下回っている。

**表15 その他の疾病・異常の者の割合** (%)

区 分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
平成 9 年 度	3.0	2.7	1.4	1.5
平成 15 年 度	3.5	3.6	2.7	2.0
平成 16 年 度	1.4	4.2	2.8	1.6
平成 17 年 度	2.0	3.9	2.3	2.1
平成18年度(A)	0.1	1.1	1.5	1.0
平成19年度(B)	0.7	1.3	1.1	1.0
増 減 (B-A)	0.6	0.2	-0.4	0.0
平成19年度全国平均(C)	0.7	1.1	1.2	1.4
比 較 (B-C)	0.0	0.2	-0.1	-0.4

### 3 肥満傾向児と痩身傾向児の出現率

#### (1) 肥満傾向児

男子の肥満傾向児の出現率は、8歳、12歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より増加しており、15歳が20.07%と最も高くなっている。

女子の肥満傾向児の出現率は、6歳、8歳、13歳及び14歳の各年齢で前年度より増加しており、14歳が13.32%と最も高くなっている。

全国平均と比較してみると、男子の16歳及び女子の17歳を除く各年齢で本県が上回っている。

#### (2) 痩身傾向児

男子の痩身傾向児の出現率は、7歳、8歳、10歳、12歳、14歳及び16歳の各年齢で前年度より増加しており、10歳が2.54%と最も高くなっている。

女子の痩身傾向児の出現率は、7歳～9歳、12歳及び15歳で前年度より増加しており、12歳が3.48%と最も高くなっている。

全国平均と比較してみると、男子の7歳及び8歳、女子の6歳～8歳の各年齢で本県が上回っている。

表16-1 年齢別 肥満傾向児の出現率 (%)

区 分	本県						全国		本県-全国		
	男			女			男	女	男	女	
	H19 (A)	H18 (B)	差 (A-B)	H19 (C)	H18 (D)	差 (C-D)	H19 (E)	H19 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	5.49	5.73	-0.24	3.64	4.76	-1.12	2.78	2.96	2.71	0.68
	6歳	7.50	9.80	-2.30	8.14	5.09	3.05	4.79	4.70	2.71	3.44
小学校	7歳	9.10	10.34	-1.24	9.75	10.12	-0.37	6.77	5.71	2.33	4.04
	8歳	16.01	11.72	4.29	10.16	6.67	3.49	8.09	7.50	7.92	2.66
	9歳	14.67	16.08	-1.41	10.75	10.81	-0.06	10.23	8.16	4.44	2.59
	10歳	14.78	17.18	-2.40	11.49	12.73	-1.24	11.59	8.92	3.19	2.57
	11歳	14.21	16.29	-2.08	11.50	13.34	-1.84	11.64	9.47	2.57	2.03
中学校	12歳	17.04	16.79	0.25	11.70	12.25	-0.55	12.41	9.67	4.63	2.03
	13歳	12.47	17.46	-4.99	12.69	11.58	1.11	10.84	8.99	1.63	3.70
	14歳	13.02	13.74	-0.72	13.32	10.34	2.98	10.22	8.75	2.80	4.57
高等学校	15歳	20.07	14.72	5.35	11.22	16.51	-5.29	13.47	9.87	6.60	1.35
	16歳	12.69	16.99	-4.30	11.95	17.10	-5.15	12.92	9.18	-0.23	2.77
	17歳	15.17	15.09	0.08	8.86	14.25	-5.39	12.87	9.23	2.30	-0.37

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100%

表16-2 年齢別 痩身傾向児の出現率 (%)

区 分	本県						全国		本県-全国		
	男			女			男	女	男	女	
	H19 (A)	H18 (B)	差 (A-B)	H19 (C)	H18 (D)	差 (C-D)	H19 (E)	H19 (F)	(A-E)	(C-F)	
幼稚園	5歳	0.00	0.14	-0.14	0.13	0.60	-0.47	0.26	0.43	-0.26	-0.30
	6歳	0.00	0.00	0.00	0.86	0.93	-0.07	0.39	0.55	-0.39	0.31
小学校	7歳	0.59	0.40	0.19	0.68	0.39	0.29	0.38	0.66	0.21	0.02
	8歳	1.27	0.56	0.71	1.62	0.64	0.98	0.86	1.06	0.41	0.56
	9歳	1.19	1.44	-0.25	1.51	0.70	0.81	1.56	1.77	-0.37	-0.26
	10歳	2.54	2.04	0.50	2.30	2.38	-0.08	2.54	2.88	0.00	-0.58
	11歳	1.84	3.41	-1.57	1.22	1.87	-0.65	2.85	3.36	-1.01	-2.14
中学校	12歳	2.08	1.30	0.78	3.48	2.55	0.93	2.38	4.01	-0.30	-0.53
	13歳	0.45	0.80	-0.35	2.54	2.70	-0.16	1.64	3.57	-1.19	-1.03
	14歳	0.88	0.62	0.26	1.26	1.84	-0.58	1.63	2.69	-0.75	-1.43
高等学校	15歳	0.76	1.70	-0.94	1.74	1.28	0.46	2.38	2.38	-1.62	-0.64
	16歳	1.60	0.48	1.12	0.78	1.38	-0.60	1.69	1.83	-0.09	-1.05
	17歳	0.33	2.05	-1.72	0.18	0.92	-0.74	1.38	1.42	-1.05	-1.24

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。